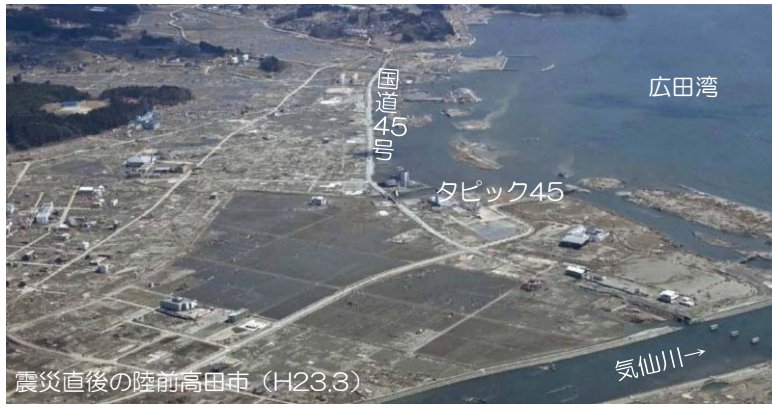


高田松原津波復興祈念公園は、平成32年度末の整備に向け平成29年3月に着工しました。現在は、国営追悼・祈念施設（仮称）を中心に、基盤工事、建築工事を進めています。



奇跡の一本松が残ったこの場所で 犠牲者への追悼と鎮魂の思いとともに 震災の教訓とそこからの復興の姿を 高田松原の再生と重ね合わせ未来に伝えていく

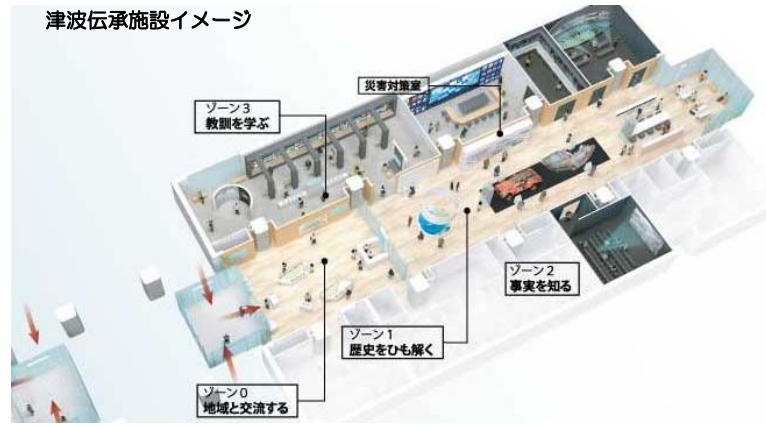
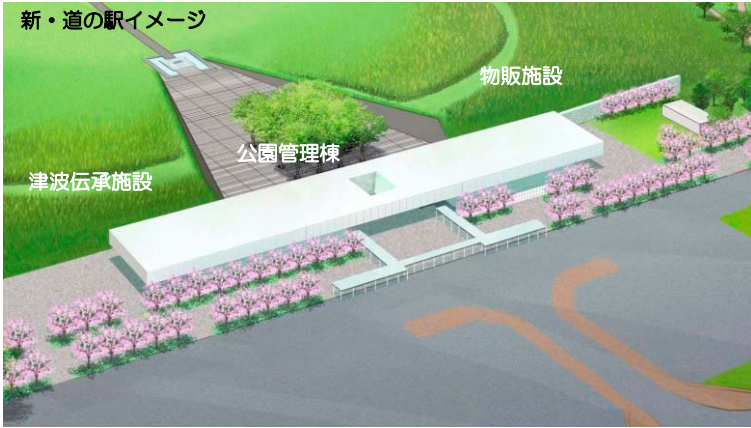


再生に向けた地域の動き

新・道の駅の建設

現在、公園エリア内において新・道の駅の建築工事を進めております。

この建物は、高田松原津波復興祈念公園を象徴する建物で、物販施設、公園管理棟、津波伝承施設の機能を持ち、県内沿岸地域へのゲートウェイともなる建物となります。



協働体制検討ワーキンググループ・ワークショップ

協働体制検討ワーキンググループは、本公園における市民協働体制の検討や市民協働ワークショップの企画立案などを目的に、岩手県と陸前高田市が事務局となり設置したものです。

岩手大学農学部広田教授を幹事とする市民や有識者などで構成し、平成27年9月から計7回の会議、取り組み事例視察、ワークショップの企画・運営、公園の活用方法や運営体制等の検討を行いました。

ワークショップは、本公園に対する関心や興味、さらには市民協働による管理運営の取り組みを醸成していくために、平成27年10月から計3回開催しました。ワークショップには、市内外から延べ160名の方々に参加いただきました。



第7回ワーキンググループ(H28.11)



第3回ワークショップ(H28.6)

「高田松原を守る会」の活動

平成18年3月に結成され、陸前高田市の貴重な財産である国の名勝・高田松原を守り育て、次世代に伝え残すことを目的に、市民・行政一体となって活動を実施しています。

平成29年5月27日、「高田松原を守る会」が、市と共催で公園区域内に、マツの植樹会を開催しました。当日は約400人が参加し、名勝高田松原の再生への一歩を踏み出しました。

